

# ITSUKA

心に寄り添い、命を支える



**清風会** 社会医療法人 清風会  
SEIFU HEALTH CARE GROUP **五日市記念病院**



## 『新院長就任挨拶 ～そこに正義はあるのか～と問いかける医療を』

(表紙中央) 五日市記念病院 : 院長 大庭 信二



この度、令和8年4月1日付けをもちまして、社会医療法人清風会 五日市記念病院院長を拝命いたしました。私は昭和61年4月に広島大学脳神経外科に入局し、当院創始者である梶原二郎前理事長と向田一敏理事長から直接脳神経外科医の基礎を学びました。以後、北九州総合病院、松江赤十字病院、済生会広島病院と広島大学病院で研鑽し、平成19年より19年間、独立行政法人国立病院機構呉医療センターにて脳神経外科診療に携わり、同院の統括診療部長、副院長として今日に至るまで地域医療の維持と医療安全、病院環境改善に取り組んできました。当初、脳神経外科診療においては、開頭手術が唯一の治療法でしたが、私が30代前半の頃に、

カテーテルインターベンションが導入され始めました。おかげで私は治療法に脳血管内手術と開頭手術という二つの選択肢がまさに増えた時代を経験することができました。そして、現在に至るまでそういった二つの治療法を駆使して、脳血管障害・脳腫瘍等の診療を確実に行ってきました。

その他、呉医療センターでの院内活動としては、まず臓器移植対策委員会委員長を任されました。臓器移植対策委員長として、脳死下臓器提供事例はこれまで4症例経験しています。平成21年度からリスクマネジメント部会委員長を任せ、転倒転落防止講習会や医療安全講習会(患者誤認予防・暴言暴力対策等)の企画などを行い活動してきました。また、平成26年から医療技術研修センター部長として医師や看護師へのシミュレーション医学教育の大切さを学び、同時期に教育企画室長として、主に『コーチング』の重要性を職員の皆様と共に勉強してきました。

団塊の世代が75歳になるとされている2025年前後の医療必要度の変化をみると、医療需要は減少し、介護の需要も2025年をピークに減少に傾くと予測されています。右肩上がりだった医療需要にやや陰りがみられる時代において、医療現場に求められることはやはり良質な医療であると思っています。私の信条は常に“そこに正義があるのか”と問いかけることです。そうすれば、医療行為が間違った方向に進まず、必ず良質な医療を提供できると信じています。これからも、微力ではございますが脳神経疾患の臨床と病院運営を通じて地域の先生方や介護施設の皆様とより緊密に連携し、佐伯地区の医療の発展に尽力いたしますので、ご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

※表紙左：訪問看護ステーション 新責任者 川端 直子 表紙右：看護部外来新責任者 新本 知子



当院では、脳神経外科系・内科系・外科系の時間外救急診療を行っております。先ず電話でご相談下さい。(21時30分以降は音声ガイダンスが流れます。)

### ●時間外受診で対応できる主な症状

脳神経外科的疾患	頭痛、頭部打撲、頭部外傷、めまい、意識消失、手足のしびれ脱力感、失神、けいれん等
内科的疾患	発熱、脱水等のかぜ症状等
外科的疾患	切り傷(深くない程度)等



詳細はHPから確認いただけます。

## 『救急ワークステーション～医療機関との連携～について』

広島市佐伯消防署 五日市救急隊 : 沖中 秀次

五日市記念病院には、2023年2月から病院派遣型救急ワークステーション(以下、WSと表記)として実習を受け入れていただいております。WSから学べることは以下となります。

- ①救急隊は傷病者を医師に引き継いだ後、次回出勤に備え帰隊しますが、WSでは搬送された傷病者の検査、治療といった搬送後の経過を見届けることができるため、救急隊員として現場活動に必要な観察力や判断力を養うことができます。
- ②救急救命士が行う特定行為の手技向上には経験が何よりも重要です。救急隊の出勤件数には地域格差があり、その格差が隊員個々の経験に直結するため、院内で特定行為を実施できること、多職種からの学びが、我々の貴重な経験となります。
- ③上記活動に加え、病院看護師が救急車に同乗し、救急現場の実情を理解していただくことにより、医療機関との相互理解が深まります。

このように、WSの活動を通じて、多職種の方々と共通認識をもつことで、我々救急隊の質の向上に繋がると考えます。また顔が見える関係構築により、地域の医療機関との連携も強化されます。今後も医療機関へのスムーズな搬送が可能になるよう、地域住民の方々に提供する救急サービスの質向上に繋がっていきたいと思います。



救急ワークステーションの詳細は、広報誌【清風2024年1月号P7～】でも紹介しています。

## 『看護部(外来)に救急救命士を採用』

2026年3月1日付で救急救命士を採用しました。近年における五日市記念病院の救急搬送患者数の増加や患者重症化傾向から、外来における初期評価および急変時対応の体制強化が重要となっております。救急救命士の採用によって、トリアージ機能の向上や初動対応の迅速化が期待でき、理念である「社会に望まれる医療」の実現に向け、外来診療および救急対応体制のさらなる充実が図れるものと考えています。



救急救命士：中田 修平